

特集 三陸さんたろ 01 板倉の町家竣工、茅葺き小屋ぐし祭り 02 古民家の再生 03 information 三陸さんたろ 04 report 茅葺き体験/土壁づくり体験 宮清大蔵外トイレ/筑波山麓茅刈り隊 04















三陸さんたろ全景 上/2階は小屋裏を利用した 下/居間は吹き抜けのある大きな空間

とで有名ですが、

実は町の

一陸町は漁業が盛んなこ

が多く良質な南三陸スギを中 くりを目指しています。 に木材として利用、 の7割を森林が占めていま の燃料として余すとこな 対は薪ストーブや薪ボ その地域の資源を復興 した、持続可能なまちづ

赤身

計画です。 ていただきました。 く木質資源の利用をすすめる んの地域住民の方に見学に ハウスを兼ねており、 事務所は復興住宅のモデル また震災

害をうけた南三陸町に板倉の 構の事務所として活用されて なる南三陸福興まちづくり機 いたしました。 復興住宅 震災による津波で甚大な被 「さんたろ」が竣 復興の拠点と

るように一階に縁側、 きました。 恩恵に与った設計です。 セプトである自然エネルギ が好を設置。 協力により竣工することが 南側の大きな開口部とあ 太陽光や風など 階 ベラ わ



■ 建築概要

復興に伴い、さまざまな団

◎建物名:板倉の復興住宅モデル さんたろう館(南三陸福興まちづくり機構事務所)

端材や

◎用途:復興住宅のモデル住宅を兼ねた事務所

◎構法:板倉構法

◎延床面積:24坪 (1階15坪、2階9坪) ◎事業主体:南三陸福興まちづくり機構 ◎設計:安藤邦廣+里山建築研究所 ◎施工:南三陸町建設職組合

木材+プレカット加工:那賀川すぎ共販協同組合(徳島県)

:安田瓦産業協業組合 (新潟県) 薪ストーブ:NPO フォレストサイクル元樹(宮城県) 薪ボイラー:エーテーオー株式会社(愛知県) 合併浄化槽:積水化学工業 株式会社(東京都)

> 上/吹き抜け居間を2階から見下ろす 下/南側の縁側とベランダ 写真/齋藤さだむ

板倉の 町家竣工



上/1尺×5寸の上り梁 右/南側隣地から見た外観

52坪と大きな建物です。 板倉の町家が竣工いたしまし 福島県奥会津地方三島町に 店舗兼用住宅で延べ床面積

を正面のデザインとしまし メイン通りに面しており、 で屋根の雪を裏に落とすこと 口は狭く奥行きが長い町家で 奥会津地方は豪雪地帯なの 町並みに合わせ、 切妻 町の 間

としています。 を想定した工夫がされていま 4mを超える積雪に耐える 風除室を設け屋根も切妻

スギの6寸角の柱、 キの8寸角の大黒柱と四隅に ように、板倉の町家ではケヤ 構造材は徳島県の木材が 通常より太い構造材 ○年のスギを 仕上げの 小屋梁と 納戸 \mathcal{O}

「板倉の町家」DATA











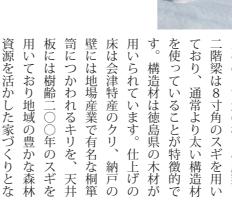
02

薪ストーブを囲む子供たち

祭り

協同組合のスギを主に用いています。

_ 豪快な出し桁



壁は土壁と昔ながらの手仕事でつくられ

一五〇年の民家を移築。屋根は茅葺き、

ています。

12月に茅葺屋根の棟にあたる

「ぐし」が完成。棟に献上する木「けん

きりとび西側は龍の文字

屋が建設されています。

今年9月より築

つくば市北部、筑波山の麓に茅葺き小

つくば市に移築・再生中の

くりは引き続き行っていきます。 とうぎ」も飾り付けられました。

古民家

0

再生

ぼ同じ間取りですが、 古民家が昨年12月に上棟を迎 板倉構法で二階を設け、新し 再利用しているので以前とほ えました。一階は古材を多く い表情が生まれました。 新たに

使われることが少なくなって が、 仕事の難しさから、 梁として利用されてきました 材といわれ、伝統的に民家の 根を支え続け、 があります。 から見上げると力強く存在感 も組まれた松の梁組み。 、ます。 この民家の特徴は、 松は建築材料の他に、 松食虫による被害や大工 松は粘りがあり丈夫な木 今なお健在で ○年以上屋 近年では 何段に 土間

樹木は家屋や畑の防風林とし 油分が多いので燃料として、 数多く登場します 絵といった伝統芸能の分野に た。そのため歌や俳句、 て、 と生活に欠かせない存在でし 落ち葉は農作物への肥料

根は

スギの場合、

大きく

、分けると、

樹齢30

を受け継いでいます ある樹木で大切にされてきま た松を梁として幾重にも使う した。この家も再びその伝統 ことは家の繁栄をあらわしま 生活のあらゆる場で活躍し 日本人に馴染みの



上棟の様子 ぐなため加工性がよくあらゆる用途に用 地に有名産地がある。軽柔で木目が真っす ほとんどが人工林。造林面積最多。日本各 九州に分布。戦後に数多く植樹され、その 杉(スギ)日本を代表する樹木。 本州、四国・ はスギでできている。 般に芯材とよばれる赤味がかった中心部 天井板と幅広い。板倉の家の9割 建築用材でも構造材、下地材、

装材として使います。 の材は節が少なく色が白いので天井板や に耐えるので土台に適しています。 など構造材に用います。また、 く丈夫です。そのため荷重のかかる柱や梁 の木材は、周辺部の材とくらべると硬く 比較的水湿 重

銘木といわれる一○○年、二○○年と樹齢 年の木から四寸角の柱など構造材を、 を重ねたスギから切り出します 一枚の天井板や差し鴨居など造作材は ,00年から落とし壁用の板材を製材. 樹齢 じま

里山建築では茨城県の上林製材所、 うことで地域経済の活性化にも寄与するこ 術に長けています。また、 日本の製材所は、高温多湿という厳しい環 給した実績をもつ徳島県の那賀川すぎ共販 に約二〇〇戸の応急仮設住宅用の木材を供 木材を適材適所に使い分ける技 地域の材木を使 震災時

境のなか、

※他にも建設場所によって全国の製材所と連携しています。

03

家づくりの裏側⑤

〔スギ〕

私達の試みです

「地域づくり支援活動

E-mail : satoyama-archi@air.ocn.ne.jp URL: http://satoyama-archi.co.jp/

株式会社里山建築研究所 FAX: 029 - 867 - 1083 茨城県 つくば市 北条一八四 ┡三00-四|||| TEL: 029 - 867 - 1086

会社概要

された板倉の家を提案し、時代の趨勢に 裾に開設したのが、里山建築研究所です よって変わり続ける民家の現代のかたち る実践的な試みの場として、筑波山の山 現代の里山に循環を取り戻すべく考案 里山資源を生かした居住スタイルを探

「企画制作、調査研究 茅葺き」 | 民家再生」: 改築、移築 | 板倉の家」:新築、

設計・設計監理 : 葺き替え修繕、 新築

> 木をみると、「お、いい薪、 などと考えてしまいます。K るのが薪のストックです。伐採されている トーブで暖をとっています。そこで気にな まだまだ冷え込む毎日。事務所土間は薪ス ほしいなぁ

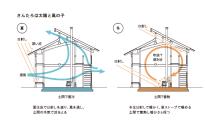
編集後記



三陸さんたろ 2012.12

南三陸の復興住宅とした板倉の家「三 陸さんたろ」を元に里山建築研究所の 提供するモデルプランを拡大。新たに3 タイプを追加しました。各タイプともに 参考価格を提示。

小冊子をご用意いたしましたのでお問 い合わせください。



さんたろS

小家族向けの平屋

さんたろ M

核家族のための標準プラン

さんたろ L

三世代に対応できるゆとりのプラン

information





銀箔 (10 貫)



62 和室 (6番)

report

茅葺き体験 2012.10 筑波山麓里山体験

筑波山麓ですすんでいる茅葺小屋づくり。筑波流茅 手とよばれる茅葺き職人が残るこの地域では独自の技 術が今も受け継がれています。茅葺き屋根は集落全体 の共同作業「結」によって葺き替えられるのが伝統的 でした。そこで近隣の住人や体験希望者を募り茅葺き 体験ワークショップを開催。

茅葺き屋根は竹の骨組みに茅(ススキ)を綺麗に並 ベワラ縄で結びつけていく、というつくりです。縄結 びができなければ茅葺きはできないので、茅葺き体験 ではまず最初に縄結びを覚えることがスタートです。

縄結びを覚えたら自分で束ねた茅をもって屋根へ

上がります。このみち 60年以上の親方に教 えてもらいながらの茅 葺き体験。教えてもら えばだれでも葺くこと はできるのです。自分 が葺いた箇所がそのま ま屋根となるので、参 加者のみなさん真剣に 取り組んでいました。





土壁づくり体験 2012.11 筑波山麓里山体験

筑波山麓ですすんでいる茅葺き小屋づくり。壁はも ちろん土壁なので土壁づくりワークショップを開催。 土壁づくりは、竹小舞(たけこまい)という壁の下地 からつくりはじめます。竹を格子状に並べシュロ縄で しっかりと結わえれば完成。そこにワラを混ぜた土

を塗りつけていきます。 土や竹、ワラなど農村 にある身近な素材でつ くることのできる土壁 に参加者は驚いていま した。



宮清大蔵外トイレ 2012.11

つくば市北条にある土蔵のなかでも一際大きい 土蔵が宮清大蔵(みやせいおおくら)。大正時代ま では米蔵として使われてきたこの蔵は、現在では ウィーンフィルやベルリンフィル等のメンバーが演 奏することで有名なコンサートの場となっていま す。場所は里山建築研究所すぐそば。コンサートの 際は、大勢の人が集まり盛況なのですが、休憩時間

のトイレが悩みの種 でもありました。ご 依頼をうけて土蔵そ ばに外トイレを設計 しました。屋根は銅 板葺き、引き戸に古 建具を利用し趣のあ る外観です。



筑波山麓茅刈り隊 2012.12 筑波山麓里山体験

茅葺小屋に使われる茅の量は民家一つで6 t 以上 といわれます。かつては集落のそばに茅場といわれ るススキの生産の場がありましたが、茅葺き屋根の 減少とともに茅場も減少の一途をたどっています。 建築中の茅葺き小屋でも大量の茅を必要とします。

素粒子物理学の先端をいく高エネルギー加速器研 究機構(つくば市)は、その広大な敷地にススキ

が群生しており、毎 年ボランティア活動 によって、茅刈りが 行われています。ボ ランティアに参加し、 刈り取った茅は屋根 の材料として使われ ました。

